前近代地図の想像力に挑戦する

逗子開成中学・高等学校　片山　健介

１．実施学年及び教科・領域

中学生・高校生　　社会科・歴史的分野（地理歴史科・日本史 B）

２．学習のねらいと博物館の活用との関連について

（１）主題名　前近代地図の想像力に挑戦する

（２）ねらい

我々は「前近代の地図」を現代社会にあるさまざまな地図と同じ視点でとらえがちである。多くの場合、「正確さ」を無意識のうちに前提にして見ることがほとんどである。また、歴史教育の場においても、「前近代の地図」をじっくり検討する時間は、ほとんどないのが現状ではないだろうか。そのような状況をふまえ、今回第３展示室に並ぶ「絵図・地図にみる近世」を活用し、「前近代の地図」の見方、読み解き方を考える方法を提案したい。「前近代の地図」の解釈を通じて、授業において学んだ知識をより深めるとともに、当時の人々の世界認識・日本認識についての理解を一層深めることを目的とする。

（３）博物館との関連

①実践について

本報告の実践は、本校の土曜講座の一講座「そうだ！博物館へ行こう！！」（全７回）のなかでおこなった。土曜講座は、中学１年生～高校２年生の希望者が対象で、本講座は各博物館の特別展等を見学することに主眼をおいたものである。すでに中学レベルの歴史を学んだ者と全く学んでいない者とが混在しており、学年がまたがることから事前・事後の授業は想定していない。各回、実際の展示と向きあい、考えることに主眼をおいている。

②活用した歴博展示

・第３展示室「絵図・地図にみる近世」

「須弥山世界図」「南膽部洲万国掌菓之図」「改正地球万国全図」「新訂万国全図」

③それ以外の活用資料

・「金沢文庫蔵「日本図」」を事前課題として配布

（金沢文庫テーマ展図録『古絵図と古地図』　1997　神奈川県立金沢文庫編・出版より A3 拡大コピー）

（→黒田日出男『龍の棲む日本』岩波書店　2003　口絵にもカラー写真あり）

３．指導計画　（３時間扱い）

過程	時間	○学習活動　●学習内容	指導上の留意点
事前指導		○　事前課題プリント配布、課題に取り組む　（参	

		考・後掲資料Ⅰ・Ⅱ）	

当日指導	5分	● 博物館内でのマナー 単眼鏡配布＋使用方法	
展開①研修室	25分	○ 参加者全員に事前課題（参考・後掲資料Ⅰ・Ⅱ（「絵図（金沢文庫蔵行基図）を読み解く）のすべての答えを確認する。	・どの生徒のどんな答えにもコメントを付し、館内の展示やその説明について関心が持続するよう工夫する。
		○ 他者の意見をメモにとる ● よう指示。 教員の解説をメモにとるよう指示。	・他者がどのように考え、どのような答えを導き出しているのかを知り、自分自身の意見との相違を考えさせる。 ・行基図から読み取るべき点を教員がまとめる。 →①釈文の読み方、内容 →②現在の地図との違い →③地図の書き手（写し手）の大切さ
展開②第3展示室	15分	○ 「絵図・地図にみる近世」 ● 展示室において各資料（仏教系世界図・マテオリッチ系世界図・蘭学系世界図）の概略の解説。	・事前課題との関連をふまえ、上記②の点を確認させる。 ・細部まで観察することのおもしろさを伝える。
展開③自由見学	60分	○ 各自の関心に従って絵地図を観察し、興味深い点をシートにまとめる。	・各参加者への声かけをおこなう。 ・自分自身の伝えたい内容について「まとめ」「発表する」作業についてのアドバイスを適宜おこなう。
展開④第3展示室	30分程度	○ 「プレゼン用プリント」 ● をもとに、各生徒1分程度で発表する。 最も興味深かった報告を参加者全員で決定する。	・疑問点には、適宜絵地図の前に移動し、全員で確認する。 ・コメントを付ける。コメントできない場合は、「着眼点」に着目し、事後の「調べ学習」をうながす。

4．実践の概要

参加者合計5名（中学3年生2名、高校1年生3名）に対しておこなった。事前に「金沢文庫蔵日本図」のコピーを配布し、それに関する課題に取り組ませておいた。当日、館内においては、その解説からおこなった。その上で、第3展示室にて「絵図・地図にみる近世」の解説を絵地図の読み解きの方法を意識させながらおこなった。その後、プレゼン用の記入シートを配布した上で、第3展示室内を自由に見学させた。再集合し、

１人１分程度のプレゼンを同室内においておこない、それぞれ活発に意見交換をおこなった。

５．成果と課題

以下に各課題の生徒の取り組みと成果・課題について述べておく。

（１）事前課題の取り組み紹介（生徒が書いた内容そのまま）（＊印はまとめ）

①質問（時代について）

・平安時代初期　・江戸時代　・江戸時代くらい　・室町～江戸中期

・室町～江戸時代（理由：地図の形がそこそこ正確）

＊時代認識については、特に深く考えずに答えている生徒が大半であった。シートを作成する際、理由を明記させた方が良かった。ここでは、「行基図」の作成時代や、文中の「蒙古」という表現などについて説明を加えることで、多くの生徒が納得した形で時代観について考えることができた。

②質問（うろこは何か）

・龍（右上に「龍之国宇嶋」と書いてあるから）

・波？ここまでが日本とわかりやすくするためのしるし？

・国境　・日本列島と外海を隔てる仮想の山脈

・海の象徴→龍（日本が「龍之国」と書いてあることをあらわすのか？）

＊当時の「境」をあらわしている、という点では参加者５人の意見が一致した。「龍」と書いた者は、地図中右上の「龍及国」という記述を参考にしたようであった。そのため、ここでは、同文にある「雨見嶋」を「奄美島」と捉え、「龍之国」ではなく、「龍及国」＝「琉球国」であるとの解釈が成り立つことを説明した。「龍之国」と生徒が読んでいた事例は、中３・高１レベルの生徒でも原文のままでは読み解くことが難しいことに改めて気づかされた。

③質問（いまの地図と課題地図（行基図）との相違点）

Ａ君　・上下逆　・旧国名　・旧国名の他に漢数字で何か書かれている（石？丁？）
　　・対馬が龍の外　・筆で地図が描いてあって形がおおざっぱな割には上手く描けている

Ｂ君　・区画があいまいでわかりにくい　・ひとつひとつの枠の中に数字などが書いてある
　　・「和泉」や「若狭」「飛弾」のように昔の地名（国名）であろうものがかいてある

Ｃ君　・うろこがある　・南が上　・県境？がアバウトすぎる

Ｄ君　・南を上にして描かれている　・各島の形が全然正確でない
　　・日本の周囲にあるはずのない土地が描かれている　・対馬・隠岐が「海外」であるかのように見える

Ｅ君　・九州に県（藩）が９つある。　・日本列島が今より細かく区分されている
　　・日本列島の向き（北を上とした時）に対して、書かれている文字が反対

・右上に「宇島」と書いてある　・上下に日本列島以外の島（大陸）が見える
・国名の横に数字

＊さまざまな意見がみられたが、それぞれの意見すべてが的確であった。一方で、参加者が多ければ多いほど、問題意識が拡散しかねないことを痛感した。当日は、北を上にした地図が当たり前との思い込みをすてるところから説明し、「国境」認識の相違についてのみくわしく説明を加えた。時代は異なるが、特に参加者全員が知っているであろう「倭寇」が「マージナルマン」とよばれ、国境をまたぐ人々が当たり前に存在した時代があったことを確認した。また、「樺太」が、「両国雑居地」であったことを説明することで、現在の固定化されつつある国境認識について考えさせた。現代社会の国境を相対化させて理解させる上でも良い教材であった。

（２）事前課題シートの成果と課題

課題作成時、生徒たちに伝えたかったことは以下の点である。

①歴史地理学、地図学においてきわめて重要な本絵図が学校から近い博物館・金沢文庫に伝わること

②どのようなことが書かれていたのか、資料（Ⅱ）中の文章のくわしい内容

③我々が「常識」と思える地図の見方が通用せず、地図に期待されている役割が違うこと

④当時を生きた人々の側にたって地図をながめてみること

これらの４点は、生徒とのやり取りのなかで伝えることができた。特に、地元の博物館館蔵史料を活用し、歴博の展示とあわせて考える試みは、大変可能性があるように感じた。絵地図類は、古文書等などと違って生徒たちにとっても教員の誘導によって生徒たちなりに解釈することが可能だからである。絵地図類が各地の博物館に存在していることを考慮すると、もっと多くのバリエーションが模索できる印象をうけた。

一方、シートについての課題を挙げると、質問①と②は、「理由」を明記させた方が話の展開がしやすかった（後掲「資料（Ⅰ）」は、すでに変更後のものを掲載している）。また、当日は資料（Ⅱ）中の文章を口頭で読み、内容を確認しながら話をしたが、中学校１年生らが参加したことを想定すると、原文のままではわからないため、それら文章を現代漢字に書き直したものを配布してやる方が良かった。（同上）

（３）当日課題の取り組み紹介（生徒が書いた内容そのまま）

①Ａ君　僕の注目点は「極地方」
その理由は…南北極圏の範囲はわかっているのに、何があるかやその形はあいまいだから。

②Ｂ君　僕の注目点は「世界の海」
その理由は…①太平洋は昔大東洋と小東洋に分かれていた
②「地中海」という名称は1602年の地図でも1816年頃の地図でも変わらない（発見された時期が早いからか）
③周りに大陸や島などがある海には最後に「海」。何もない開けた海には「洋」と使われているようである（また規模も関係

しているようである。）

③Ｃ君　僕の注目点は「長人国」

その理由は…万国総界図、南膽州万国掌菓之図両方に南アメリカに「長人島」「長人国」あり。そして長人の絵にある文章の最後に「～海とする」。

さらに南膽州万国掌菓之図の長人国の右側には海の上に人がいる。

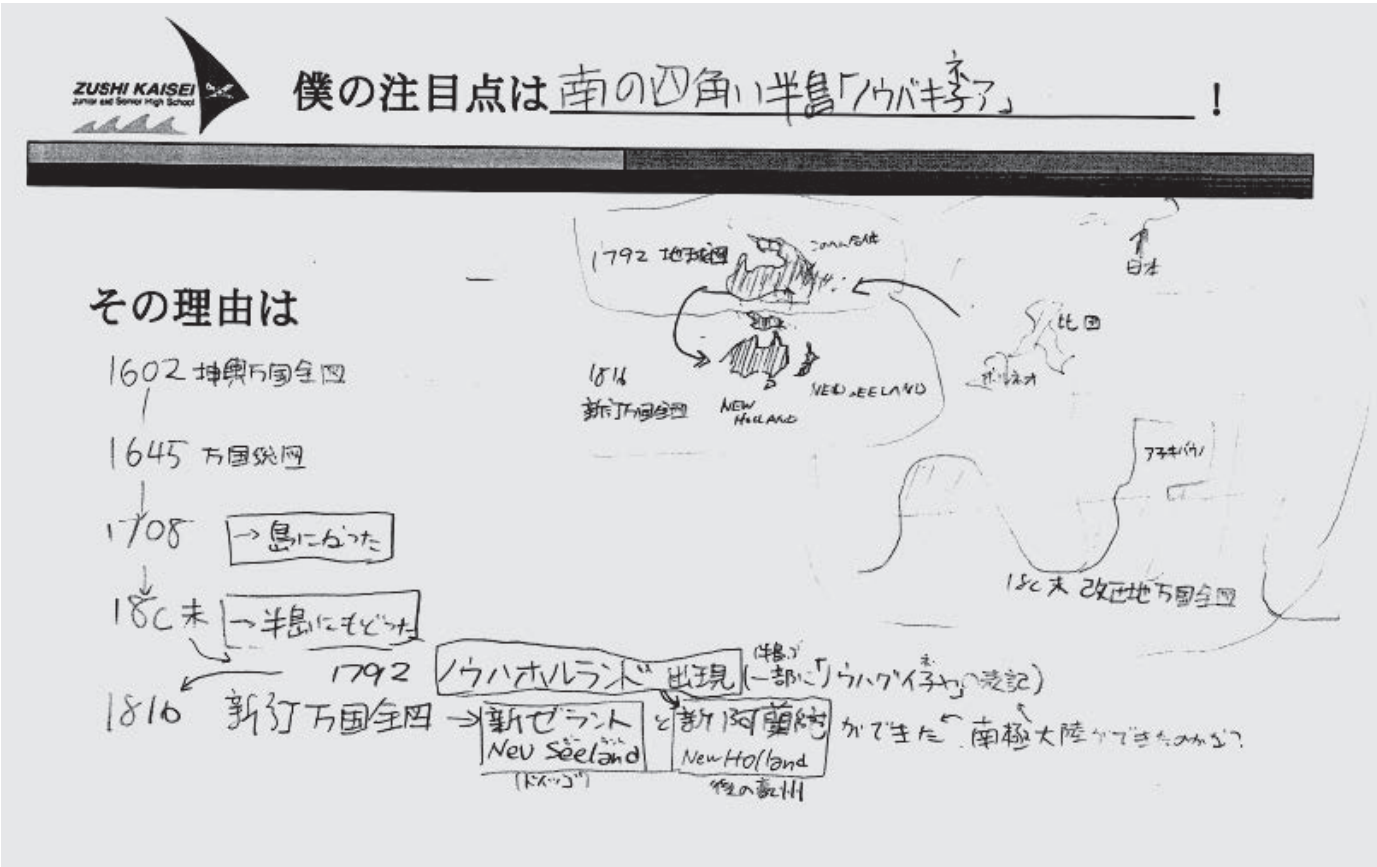
以上の点は関係があってつながるのではないか？

④Ｄ君　僕の注目点は「人物図」

その理由は…国（地域）によって、服装や人数が違っているし、多くが同じ大きさの枠に書いているのに、二つの枠だけ、大小にわかれている。

服装は、貿易か何かできたときのものだとしても、枠の大きさや人数が違うのは、その国の世界への関わりが関係しているのでは、と考えたから。

⑤Ｅ君　以下参照



（４）当日課題の成果と課題

課題そのものは、大変な興味をもって取り組んでいたが、たった１時間程度で見ずしらずの他学年の参加者に発表するコメントを考えるには、少々時間が足りないことが想定されていた。しかしながら、発表会を実施してみると他者の発表を素直に受け入れ、実際の絵地図をそれぞれが確認し、各自の意見を言い合うなど、かなりの盛り上がりをみせた。参加者によって場の雰囲気の違いは想定されるが、各生徒の間に教員がはいることで、有意義な場にできることを確信した。今まで出会ったことのない他者とのコミュニケーションの場として機能することは予想外の収穫であった。

一方、大きな課題としては、生徒の関心は絵地図ばかりに集中してしまい、「第３展示室の利用」という観点からみてみると改善の余地が大いにあることに気づいた。第３展示室の入り口の映像「世界の中の近世日本」の活用や四つの口での外交などについてもあわせてコメントした上で実践した方がより生徒の関心を活かせることを痛感した。

（５）両課題に共通した成果と課題

①成果

・絵地図を細部まで鑑賞することのおもしろさを知ることができた。
・各絵地図を比較するという資史料の読み解きの基本を学ぶことができた。
・学習内容をもとに、資料中の文字そのものやその文字があらわす内容、前近代絵地図がもつ諸側面について考えることができた。

②課題

・教員の事前準備
　→各絵地図で生徒が感じる疑問に答える知識力
　→「細かな発見」に終わりがちな生徒の関心を大きな視点に引き上げる力量
　→糸口をなかなか見つけることの出来ない生徒に対する適切なアドバイス
　→プレゼンの場において拡散しがちな生徒の関心を一つの方向にもっていく力量
・１回の来館で終わらない事後指導の工夫

６．わたしの考える歴博活用案

以上の課題をふまえた上で、以下の活用案を提案する。変更点は以下の通りである。指導案中の変更点については、すべて下線を引いた。

（１）事前指導の際、実践日では「金沢文庫蔵行基図」（図録『古絵図と古地図』）そのままのコピーを配布したが、中学校１年生には難しいため、トレース図（後掲資料（Ⅱ））を配布することにした。

（２）事後指導として、まとめプリントの配布を加えた。土曜講座のシステム上、事後指導ができないことをふまえた。

（３）展開②「絵図・地図にみる近世」の説明の前に、第３展示室入口の映像・「万国人物図」についての説明を加えた。絵地図をみる上で当時の「知識」の伝わり方について考えてもらうことと「万国人物図」中の「長人」「小人」などについて説

明を加えることで、当時の「想像力」について考えてもらうことを重視した。

（４）展開②「絵図・地図にみる近世」において、仏教系世界図・マテオリッチ系世界図・蘭学系世界図が共存していたことについての説明を加えた。3 図を発展的に理解しようとする生徒が多かったからである。

（５）資料（Ⅲ）において、実践で活用した「金沢文庫蔵行基図」の解釈、絵地図等を教材として活用する際の参考資料、絵地図等のデジタルデータを閲覧できるホームページ情報の 3 つを参考までに掲げておく。各地の絵地図類を活用する環境はある程度整っており、工夫次第で利用できることを示すためである。歴博と各地域の博物館、そして教室をつなげる試みは可能なのではないか。

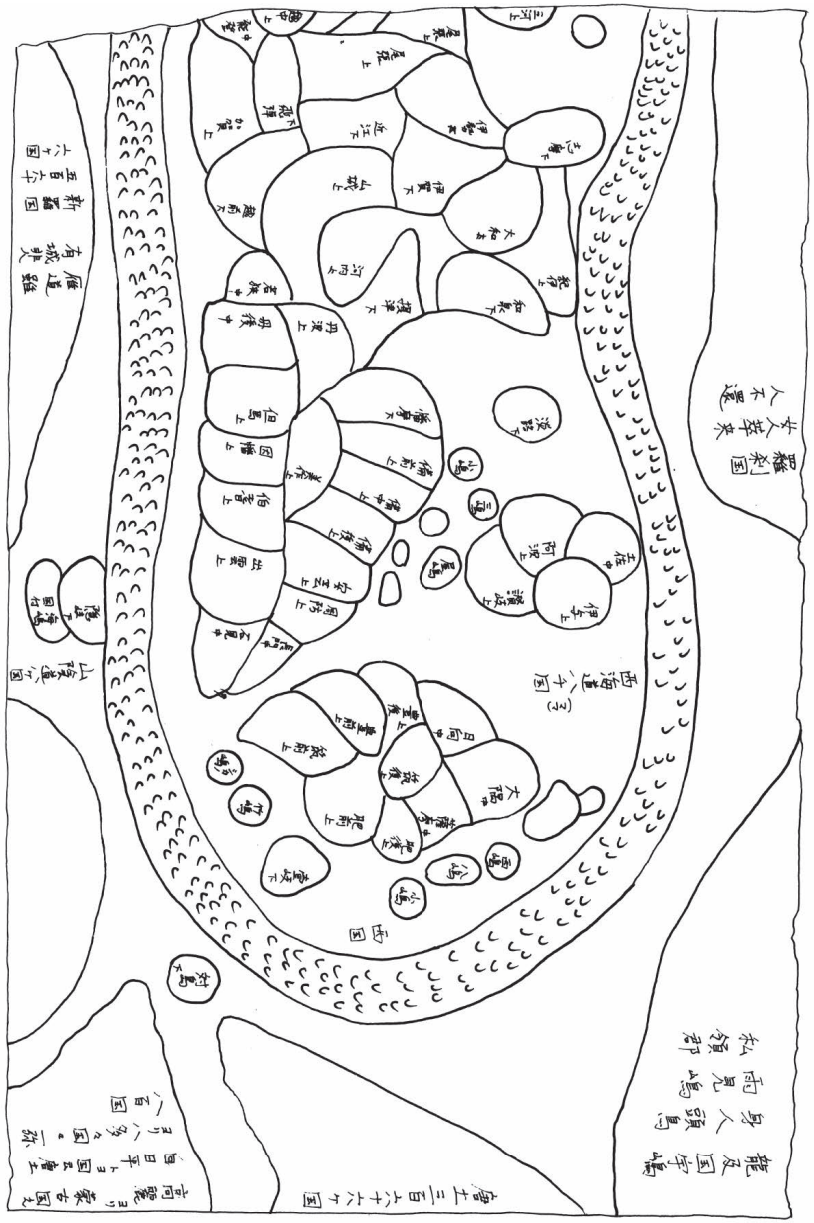
過程	時間	○学習活動　●学習内容	指導上の留意点
事前指導		○　事前課題プリント配布、課題に取り組む　（後掲資料Ⅰ・Ⅱ）。	

当日指導	5 分	●　博物館内でのマナー 単眼鏡配布・使用方法	
展開①研修室	25 分	○　参加者全員に事前課題（後掲資料Ⅰ・Ⅱ（「絵図（金沢文庫蔵行基図）を読み解く）のすべての答えを確認する。	・どの生徒のどんな答えにもコメントを付し、館内の展示やその説明について関心が持続するよう工夫する。
		○　他者の意見をメモにとる ●　よう指示。 翻刻資料を配布し、教員の解説をメモにとるよう指示。	・他者がどのように考え、どのような答えを導き出しているのかを知り、自分自身の意見との相違を考えさせる。 ・行基図から読み取るべき点を教員がまとめる。 →①釈文の読み方、内容 →②現在の地図との違い →③地図の書き手（写し手）の視点の大切さ
展開②第3展示室	10 分	○　事前課題②を第３展示室 ●　入り口映像 万国人物図について確認・教員による解説	・「様々な日本」認識について考えさせる。多様であることを確認させる。 ・万国人物図の中の「長人」「小人」に注目させ、当時の人びとが持ったであろう「様々な世界」認識について考えさせる。
	10 分	○　「絵図・地図にみる近世」 ●　展示室において各資料	・事前課題との関連をふまえ、世界観の相違や「国境」認識のさまざまな意味での

		（仏教系世界図・マテオリッチ系世界図・蘭学系世界図）の概略の解説。	相違を手がかりに、上記②の点にあげた地図に求められている正確さの質が現代の地図とは全く異なることを考えさせる。 ・細部まで観察することのおもしろさを伝える。 ・仏教系世界図以下の各絵図が時系列にそって発展するのではなく、同時共存していたとを強調して伝える。
展開③ 自由見学	60 分	○　各自の関心に従って絵地図を観察させ、興味深い点をシートにまとめる。	・各参加者への声かけをおこなう。 ・自分自身の伝えたい内容について「まとめ」「発表する」作業についてのアドバイスを適宜おこなう。
展開④ 第 3 展示室	30 分程度	○　「プレゼン用プリント」 ●　をもとに、各生徒 1 分程度で発表する。 ・最も興味深かった報告を参加者全員で決定する。	・疑問点には、適宜絵地図の前に移動し、全員で確認する。 ・コメントを付ける。コメントできない場合は、「着眼点」に着目し、事後の「調べ学習」をうながす。

事後指導		○　後日、「プレゼン用プリント」をまとめ、教員のコメントを加えたものを参加者全員に配布し、当日の疑問点を整理する。	展開④においてコメントできなかった点や重要事項等を中心にまとめる。

資料（Ⅱ） 金沢文庫蔵日本図トレース図（＊実践の際は図録コピーを配布）



資料（Ⅰ） 事前課題シート
～絵図を読み解く～

別紙（資料（Ⅱ））を参考に答えてください。この絵図は、横浜市金沢区にある金沢文庫に伝わる絵図です。じっくりみてみると、興味深い点がたくさんある地図です。（なお、元々は左側部分が存在していたはずですが、現在は伝わっていません。）

以下の問いに素直に答えてみてください。

質問①　この地図はいつのころの絵地図だと思いますか？理由も含めて書いてください。

質問②　うろこの様なものが絵地図中にありますが、これは何だと思いますか？理由も含めて書いてください。

質問③　いまの私たちが知っている地図と異なる点を箇条書きであげてみてください。

資料（Ⅲ）各種データ

（１）「金沢文庫蔵行基図」の解釈等で参考となるもの

①応地利明　『絵地図の世界像』　岩波新書　1996

②黒田日出男　『龍の棲む日本』　岩波書店　2003

③黒田日出男　「行基式〈日本図〉とは何か」
（黒田日出男・メアリ・エリザベス・ベリ・杉本史子編　『地図と絵図の政治文化史』東京大学出版会　2001）

④青山宏夫　「第一部　第一章　日本国の空間と地理的想像力―主として雁道の検討から」（『前近代地図の空間と知』　校倉書房　2007）

①～④のうち、比較的活用しやすいのが②である。釈文の解釈案が提示されており大変参考になる。④は解釈の相違等を確認する際に有益。

（２）絵地図等を教材として活用する際にわかりやすい参考資料

①織田武雄　『地図の歴史　日本編』　講談社　1974

②神戸市立博物館編　『古地図セレクション』　神戸市スポーツ教育公社　1994

③三好唯義・小野田一幸　『図説　日本古地図コレクション』河出書房新社　2004

④杉本史子他編　『絵図学入門』　東京大学出版会　2011

特に④は、「はじめての総合的な入門書」と銘打っているように資史料の解釈や調べるべき文献などが紹介されており有益。

（３）絵地図等のデータベース等

①神戸市立博物館　http://www.city.kobe.lg.jp/museum/
→「名品撰　古い地図・描かれた日本と世界」

②京都大学電子図書館古地図コレクション
http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/maps/index.html

③東北大学附属図書館　東北大学デジタルコレクション　狩野文庫データベース
http://dbr.library.tohoku.ac.jp/infolib/meta_pub/OdnCsvDefault.exe

④国立国会図書館　デジタル化資料 http://dl.ndl.go.jp/#classic
→「貴重書等」「絵図のタイトル一覧へ」

⑤九州大学総合研究博物館　デジタル・アーカイブ～記録された文字と絵図～
http://record.museum.kyushu-u.ac.jp/

⑥徳島大学附属図書館　貴重資料高精細デジタル・アーカイブ
http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/~archive/
→「近世古地図・絵図コレクション」

⑦明治大学図書館　蘆田文庫古地図コレクション　http://www.lib.meiji.ac.jp/ashida/

⑧宮城県図書館蔵　叡知の杜　http://eichi.library.pref.miyagi.jp/
→「坤輿萬國全図」